

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報
平成23年(2011)大会号



建設中の東京スカイツリーが3月18日、最終の高さ634(ムサシ)に到達。
先人の知恵も取り入れた塔は、今回の地震にビクともしなかった。

新潟県立村松高等学校 東京同窓会 第54回定期大会に臨んで

大会実行委員長 郡司 正大 (高16回)

同窓の皆様、今年も恒例の松高東京同窓会定期大会の開催時期がやって参りました。今年で54回を数えます。今年はまだ、母校創立100周年を迎えおめでたい年でもあります。10月には記念式典が挙行されるようです。

しかしながら、3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の惨禍を広範な地域にもたらし、死者行方不明者は未だに増え続けており、心よりお悔やみ申し上げます。また、大勢の方々が避難生活を余儀なく強いられ、我々も支援活動を通じて1日も早い復興をお祈り致します。

さて、話を母校に戻します。今年の入試は、学級減の3学級118人の募集になったうえ、大幅な志願者減で定員割れになって仕舞いました。本当に残念な事であり、

心寒からしめるものがあります。母校の今後一層の奮起を願って止みません。

最近の卒業生の居住するところを、同窓会名簿(創立100周年記念)により調べてみますと、殆ど五泉市であります。勤務先は別として新潟市も決して多くありません。ましてや、東京・関東地区に居住する人々は極々僅かです。事情はどうであれ、選択肢を広げて進学や就職にもっと多くの卒業生に上京して欲しいものです。

東京同窓会は半世紀以上も続いております。上京して来る若い後輩が喜んで参加したくなるような同窓会に皆で育てていきましょう。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京同窓会 第54回定期大会 プログラム (敬称略)

日 時 平成23年6月12日(日) 正午開会 会 場 ホテル グランドパレス3F「白 樺」

第一部 総 会 ——司会・進行—— 安中 信夫 (高20回)、徳永 道子 (高12回)

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・・・・実行委員長 郡司 正大 (高16回)
- 2 東京同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 鈴木 多喜男 (高 4回)
- 3 村松高等学校同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 相田 豊 (高 9回)
- 4 村松高等学校長あいさつ・・・・・・・・・・・・・校 長 鈴木 重行
- 5 議 事・・・・・・・・・・・・・司 会 安中 信夫 (高20回)
 - (1) 平成22年度委員会活動報告
 - ① 総務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 郡司 正大 (高16回)
 - ② 財務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 塚田 勝 (高 8回)
 - 会計監査報告・・・・・・・・・・・・・監 事 熊倉 富次 (高 9回)
 - ③ 広報委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 大橋 貞夫 (高10回)
 - (2) 会則の改正
 - ① 会則の一部改正・・・・・・・・・・・・・総務委員長 郡司 正大 (高16回)
 - (3) その他
- 7 閉会のことば・・・・・・・・・・・・・実行副委員長 佐藤 赳 (高11回)

第二部 トランペット演奏

奏 者 飯吉 高
ピアノ伴奏 飯吉 亜季子

第三部 懇親会 ——司会・進行—— 安中 信夫 (高20回)、徳永 道子 (高12回)

- 1 開 会・・・・・・・・・・・・・司会者
- 2 乾 杯・・・・・・・・・・・・・出席者の中から
- 3 お楽しみ抽選会・・・・・・・・・・・・・幹事 平山 誠一 (高22回)・他
- 4 校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・参加者全員
- 5 手締め・・・・・・・・・・・・・副会長 渡辺 八郎 (高 3回)
- 6 閉会・お開き・・・・・・・・・・・・・司会者



平成22年度 東京同窓会の動き

4月24日(土)	編集会議(会報49号) 13:00新潟県人会館3A ・編集最終確認	10月23日(土)	第6回幹事会 14:00新潟県人会館 ・54回大会会場の採否 ・その他
4月24日(土)	第1回幹事会 14:00新潟県人会館3A ・53回大会について ・その他	11月12日(金)	会報50号原稿を第一印刷へ
5月28日(金)	グランドパレス打合せ 11:00ホテル集合、実行委員	11月27日(土)	第2回総務委員会 ・継続案件の打合せ ・その他
5月31日(月)	第一印刷へNo.49号原稿送付	12月25日(土)	第7回幹事会 14:00新潟県人会館 ・会報発送460通(メール便) ・54回大会について ・母校1100周年に関して ・新幹事の就任と退任幹事の紹介 ・幹事会終了後忘年会開催
6月05日(土)	第2回幹事会 14:00新潟県人会館 ・53回大会案内状発送作業 470通(464通郵送) ・大会会場ホテルとの確認事項 ・役員改選について ・その他	2011年	
7月03日(土)	第3回幹事会 14:00新潟県人会館3A ・53回大会の最終打合せ 実行委員長報告と打合せ ・その他	2月19日(土)	編集会議(会報51号) 13:00新潟県人会館3A ・平成23年大会号の編集方針 ・その他
7月11日(日)	東京同窓会53回大会 12:00ホテルグランドパレス ・出席者総数140人 ・会報配布数145通	2月19日(土)	第8回幹事会 14:00新潟県人会館3A ・54回大会について 司会者、アトラクション ・100周年記念事業について ・総務委員会からの提案 *会員名簿と幹事名簿の整理 *会則の見直しについて ・その他
7月31日(土)	第4回幹事会 14:00新潟県人会館 ・会報発送数143通 ・53回大会総括 ・その他	3月03日(木)	幹事打合せ会 10:30新潟県人会館3B ・100周年記念講演会について 実行委員会の記録を本部に要請 ・その他
9月19日(日)	編集会議(会報50号) 13:00新潟県人会館 ・平成23年新春号の編集方針 ・その他	3月19日(土)	編集会議(会報51号) 13:00新潟県人会館2F ・編集方針、原稿の確認 ・その他
9月19日(日)	第5回幹事会 14:00新潟県人会館 ・新幹事と退任幹事の紹介 ・54回大会会場について ・54回大会実行委員会の設置	3月19日(土)	第9回幹事会 14:00新潟県人会館2F ・54回定期大会について 大会役割分担、第二部の催し *会報掲載のプログラム ・3日の幹事打合せ会の報告 ・100周年記念式典への参加形態 ・東京同窓会員の継続確認調査の件 ・その他
10月16日(土)	第1回総務委員会 13:00林さん別宅 ・会員名簿の整理について ・その他		
10月23日(土)	編集会議(会報50号) 13:00新潟県人会館 ・会報50号編集方針確認		

ありがとうございました

①平成22年度年・会費を納入された方々（敬称略）

青木 敏和	酒井 俊昭	佐藤 越	根本 俊夫	芦川 靖子	島田 淑子
朝倉 克巳	佐々木 秀三	讃岐 義宏	羽賀 道信	安達 繁子	重黒木 紀代
畔田 昭義	金子 鶴男	佐野 善吾	長谷川 吾一	阿部 モヨ子	鈴木 雅子
阿部 勇	金子 健二	澤井 昭	長谷川 五郎	荒井 るり子	高尾 桂子
安部 實	亀山 知明	澤出 越允	長谷川 三男	飯利 幸	高岡 五百子
新井 三郎	川合 敏男	柴野 暢夫	服部 修治	五十嵐 八端	高浜 つる子
新井 康夫	河辺 徹夫	下野 文幹	濱田 守	一氏 愛子	田川 百合子
荒川 守	川村 莞爾	重黒木 賢二	原 高志	伊藤 起子	滝沢 美恵子
安中 信夫	神田 栄俊	新保 優	平山 誠一	上杉 礼子	田中 芳子
安中 幸男	菊地 一雄	杉本 芳男	堀川 俊郎	内田 道子	塚野 ミイ子
五十嵐 一郎	杵渕 政海	杉山 光男	増田 訓英	大島 エミ	出口 テル
五十嵐 丈郷	木村 寿一	鈴木 健司	松尾 貢	大竹 和子	寺山 征子
石井 清和	桐生 光憲	鈴木 輝雄	間藤 謙一	大橋 也子	徳永 道子
石川 滋	熊倉 繁	鈴木 多喜男	丸山 貞次	岡 信子	中川 シズ子
石黒 勝夫	熊倉 富次	関塚 豪	水戸 勉	小笠原 よし子	中島 和子
石黒 久七	熊倉 道雄	関谷 雄二	三室 茂和	緒方 康子	中村 エツ
石黒 四郎	雲村 俊槌	瀬倉 武志	宮川 裕皓	岡部 ユキ	中村 俊枝
石本 芳雄	黒谷 幹丈	高岡 英治	宮腰 和男	岡本 勝子	波多 ミサエ
稲毛 越郎	郡司 正大	高岡 光夫	宮沢 正由	小沢 幸子	波多野 紀子
今井 貞夫	剣持 常泰	高岡 雄三	武藤 三郎	粕谷 裕子	林 信子
今井 孝宏	小池 生夫	高地 彰	武藤 達家	片柳 ムツ	治田 レイ子
今井 英雄	小出 博三	高地 勝	武藤 正昭	木村 孝子	深見 洋子
岩野 忻史	小日山 芳栄	高山 幹雄	村川 恭平	久我 マキ	藤崎 トヨ
遠藤 昭	小山 光男	滝沢 信喜	村川 五郎	熊倉 マサ子	藤本 夏美
大江 勝司	近藤 尚志	滝沢 義則	村川 忠司	小島 典子	星野 孝子
大橋 貞夫	近藤 洋輝	田中 豊	目黒 義二	小林 早月	升本 久子
大橋 利光	斉藤 公明	長賀 一哉	八木 又一郎	近藤 昌子	松澤 綾子
岡田 見津夫	斎藤 正義	塚田 勝	築取 正通	佐々木 恵美	松本 知子
奥津 嘉雄	坂上 卓夫	辻川 登	山崎 輝雄	佐藤 綾子	真水 道子
小黒 正恒	坂上 三夫	坪谷 次郎	山崎 豊吉	佐藤 治	三国 弘子
小柳 実	佐久間 英輔	弦巻 功	山田 俊治	佐藤 洋子	三宅 紀子
笠原 静夫	篠川 恒夫	寺田 徳隣	吉井 清	佐藤 昌	向山 律子
梶屋 庄佑	佐々木 秀和	永田 毅	吉田 晴男	佐藤 八重	森川 弘子
加藤 喜七	佐藤 良平	中村 雅臣	渡辺 八郎	佐藤 玲子	森田 勝美
蠣崎 福次郎	佐藤 栄治	二宮 文三	渡辺 嘉樹	白石 キヨ	山下 栄子
加藤 清治	佐藤 克	二宮 光洋		鈴木 節子	山西 愈佐子
				鈴木 則子	渡辺 厚子

平成22年度会費納入者数 合計＝217名

②平成22年度・寄付された方々（敬称略）

○男子の部（4名） 金額＝13,000円

7,000円 石川 滋

3,000円 熊倉道夫

2,000円 武藤三郎

1,000円 大岩信也

○女子の部（2名） 金額＝4,000円

2,000円 小林早月、緒方康子

○26,000円 8回生同期会有志

○72,430円 佐藤 越（郵便切手現物寄付）

○30,000円 同窓会本部より活動助成費

寄付合計金額＝145,430円

平成22年度会計収支決算書

(平成22年4月1日より平成23年3月31日)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位:円)			支出の部 (単位:円)		
特別会計			特別会計		
第53 回大会収入 (No50既報) 1,127,000			第53 回大会支出 (No50既報) 1,273,715		
一般会計			一般会計		
1	22年度 会費	651,000	1	53回大会 補填	146,715
	男子 143名 429,000				
	女子 74名 222,000		2	会議費	96,470
	計 217名			(幹事会・広報委員会)	
2	平成22年度 寄付金・切手	145,430	3	会報発行関連費	355,368
	男子 4名 13,000			No49印刷代 (500部) 128,100	
	女子 2名 4,000			会誌用封筒 (含印刷代) 16,275	
	同窓会本部 (活動費助成) 30,000			発送費 (メール便・郵送) 31,930	
	8回生同期会有志 26,000			No50印刷代 (500部) 115,500	
	切手現物 11回生佐藤君氏 72,430			会誌用封筒 (500部) 16,275	
	* 寄付金者名は4ページに掲載してあります			発送費 (メール便) 38,920	
				発送費 郵送・宅配等 6,760	
				発送用宛名シール 1,608	
3	利子	180	4	通信費	37,498
				切手/はがき 29,118	
				コピー代 6,400	
				宅配・郵便 1,980	
			5	年会費振込・他手数料	12,670
				振込用紙印字代 1,100	
			6	対応費 (交際費)	175,750
				県人会賛助. 理事 会費 20,000	
				本部総会対応費 (参加4名) 90,000	
				県人会百周年記念 寄付 50,000	
				見方謙策氏 献花 15,750	
			7	諸雑費 消耗品	15,785
				インク・用紙・写真等 15,785	
22年度収入合計 796,610			22年度支出合計 840,256		
平成21年度から繰越 646,914			平成23年度へ繰越 603,268		
郵便貯金 646,914			郵便貯金 597,768		
			切手現物 8,500		
合 計 1,443,524			合 計 1,443,524		

上記の通りご報告致します。

平成23年5月2日

東京同窓会長 鈴木 多喜男 ㊞

財務委員長 塚田 勝 ㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成23年5月2日

会計監事 熊倉 富治 ㊞

会計監事 高岡 五百子 ㊞

村松高校 創立100周年記念事業のご案内

広報委員 石黒 勝夫 (高1 4回)

我が母校新潟県立村松高等学校は、明治44年新潟県立村松中学校として開校し、今日まで約21,000人の有為な人材を輩出してきました。その同窓生は、県内外の各界・各方面において活躍されています。

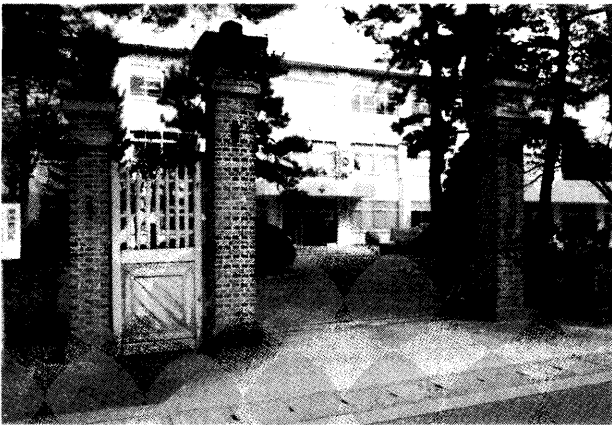
その母校が、本年、創立100周年という記念すべき年を迎えます。

昨年7月、母校の地元では、同窓会（東京同窓会長もメンバーの一員です。）、後援会、PTA、学校が一体となり、「創立100周年記念事業実行委員会」を発足させ、記念事業の推進に取り組んでこられました。このほどその記念事業の概要が固まりましたので、東京同窓会の会員の皆様にご案内いたします。

事業内容は、いずれも母校の教育活動の充実に資するとともに、100周年という大きな節目に当たり、「臥龍」の輝かしい歴史と伝統を継承し、未来に向かって社会の担い手となる人材をより多く育成するものです。

ふるさとを離れて首都圏で生活されている会員の皆さんには、ふるさとを離れていても母校の発展と一人でも多くの後輩が母校で学んでくれることを願っておられることと思います。

どうかこの記念事業の完遂に、会員の皆さんからの何分のご支援と力強い牽引をお願いします。



正門（登録文化財）

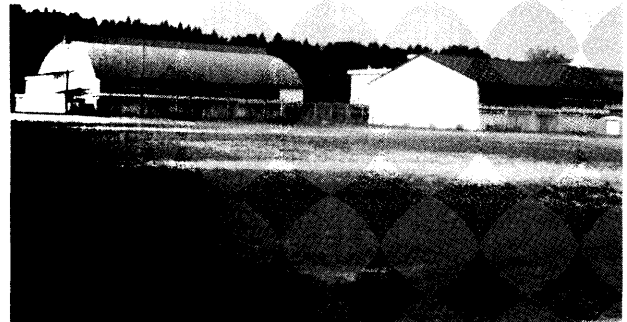
創立100周年記念事業の計画内容

記念事業として次の5つが計画されています。

1. 記念式典

日時：平成23年10月1日（土）9:30~10:30

会場：村松高等学校第一体育館



第一体育館（左側）

2. 記念講演会

①日時：平成23年9月28日（水）13:30~

会場：村松高等学校第一体育館

講師：小池生夫氏（高3回卒）

慶応義塾大学名誉教授

「演題未定」

②日時：平成23年10月1日（土）10:40~11:50

会場：村松高等学校第一体育館

講師：島田洋七氏

「挫折にめげず自分の道に挑戦した私」

3. 記念碑除幕式

日時：平成23年10月1日（土）12:05~12:20

会場：村松高等学校玄関前



正門内

4. 記念祝賀会

日時：平成23年10月1日（土）13:15~15:15

会場：さくらんどう会館イベントホール

5. その他の記念事業

- (1) 教育環境整備
 - ・普通教室に冷房機器を設置
- (2) 図書館の整備
 - ・図書を充実しパソコンで管理
- (3) ステージ緞帳の架け替え
- (4) 登録有形文化財の校門に説明板の設置
- (5) 創立100周年記念碑の建立
- (6) 記念誌の発行

以上が創立100周年記念事業の概略です。

お知らせ

- ・式典、講演会、祝賀会に参加を希望される方は事務局までご連絡願います。
 - ・その他詳細は、後日、事務局からご案内します。
- (問合せ先) 事務局 熊倉洋子 (高20回)
〒959-1704 新潟県五泉市村松甲1775
TEL: 0250-58-6362

母校村松高校100年の歩み

母校村松高等学校の100年の歩みをご紹介します。
ご自分がどの時期に母校で学び、将来何を目標にしたかったか、恩師、友達と交わり何を語っていたかなど、いろいろな思い出を重ね合わせてください。

- 明治44. 3. 21 設立許可・新潟県立村松中学校と称す
4 徽章制定
4. 25 第1回入学式挙行 入学者72名(2学級)(この日を創立記念日と制定)
- 大正2. 3. 31 新発田中学校村松分校と称す(1学級)
3. 4. 1 独立認可、新潟県立村松中学校と称す
5. 3. 15 第1回卒業式挙行
6. 3. 11 校旗樹立式挙行
11. 6. 2 創立10周年記念式挙行
- 昭和6. 10. 25 創立20周年記念式挙行
16. 11. 5 創立30周年記念式挙行
20. 4 4学級募集
22. 4. 1 学制改革により新制中学校を併設
23. 4. 1 学制改革により新潟県立村松高等学校と改称
6. 1 定時制課程を併置1学級募集(昼間部)
24. 3. 31 町立村松女子高等学校を合併
4. 1 定時制2学級募集(夜間部併置)
25. 4. 11 全日制普通科の外に被服科1学級を併置
26. 9. 30 創立40周年記念式挙行
30. 4. 1 定時制課程1学級募集となる(夜間部)
37. 4. 25 創立50周年並びに体育館落成記念式典挙行
41. 4. 1 全日制普通科6学級
43. 10. 21 部室新築・屋外照明施設完成

11. 22 洋裁実習室増築
45. 3. 31 体育館増築(附属室)
46. 3. 31 被服整理実習室新築
9. 23 創立60周年記念式挙行
47. 12. 15 柔剣道場新築落成
49. 3. 30 特別教室棟改築落成
50. 3. 31 普通教室棟(18)教室 校長公舎新築落成
51. 1. 6 第二体育館新築落成
52. 3. 31 家庭科棟改築、電気室新築落成
53. 3. 31 管理棟改築、受水槽室新築落成
54. 4. 1 定時制課程募集停止
11. 12 音楽室改築落成
56. 10. 27 創立70周年記念式挙行 記念事業の中庭完成
57. 2. 21 定時制閉課程記念式挙行
3. 31 定時制閉課程
12. 23 多目的教室、地学教室新築落成
62. 3. 31 野球場拡張整備完成
63. 9. 30 グラント整備完成
平成2. 9. 30 体育館改修完成
3. 10. 27 創立80周年記念式挙行 記念事業の雨天練習場完成
4. 4. 1 被服科募集停止
6. 1. 22 被服科閉科記念式挙行
9. 9. 9 グラント、野球場整備完成
10. 1. 7 柔剣道場改修工事竣工
13. 10. 28 創立90周年記念式挙行
10. 31 第二体育館大規模改修
14. 10. 31 特別教室棟(理科棟)大規模改修
17. 8. 9 サッカーグラント防球ネット設置
9. 30 普通教室棟他改修・補強建築工事竣工
18. 2. 24 大体育館耐震補強工事竣工
9. 29 特別教室棟(家庭科棟)他改修
19. 10. 23 管理棟改修
20. 3. 7 正門有形文化財登録



生徒昇降口



ピアノ夢物語

～ベーゼンドルファーに寄せて～



山田（澤田）幸子（高4回）

「菩提樹」 シューベルト 歌曲集

♪

泉に沿いて 繁る菩提樹

慕い行きては うまし夢みつ

幹には彫りぬ ゆかし言葉

うれし悲しに 訪いしそのかげ

「冬の旅」 OP 89

・ ミュテ 作詞

・ シューベルト 作曲

・ 近藤朔風訳（明治42年）

※うまし＝美しい・好ましい

（この美しいメロディーを口ずさむと、10代の頃の懐かしい思い出の中にタイムスリップしてしまうのです。）

ミュテの詩「冬の旅」24曲中の第5番にあるこの「菩提樹」は遠く去った恋人との思い出を胸に、死の影に怯えながらさまよい歩く若者にとって、菩提樹の木陰は安らぎの場であり「ここに幸せがあるよ」と木々は優しく囁くのです。

音楽の都・ウイーンに生れ育ったシューベルトは、不治の病に犯されて31歳で夭折します。残された己が命とかの若者の姿を重ね合わせ、この作品の中で見事人間心理の陰影を表現したのです。美しい調べが心の奥深く響く時、「音楽は世界共通の言葉である」としみじみ感じるのです。

その扉を開き豊かな音楽の舞台にお導き下さったのがまだお若かった松高の音楽教師・山家寿子先生でした。音楽室へは寄宿舎の長い廊下を左手に折れた先の平家でそこにはベーゼンドルファーが置かれていました。レッスンを終えた2級上の佐藤雄雄さん（新潟大学名誉教授）が楽譜を胸に抱えてあの廊下の端を伏目勝に行く姿が（決して女子の方を見ない）窓外の見事な八重桜の樹と重なり蘇って来るのです。

〈ベーゼンドルファーBösendorfer〉はウイーン生まれでイグナツ・ベーゼンドルファー（1796～1856）によって創られました。世界三大ピアノの一つで（他ゴスタインウエ・ベシタイン）があり、ベーゼンドルファーはピアノの巨匠と呼ばれたF・リストの激しい演奏に絶え抜いたことで、名器中の名器とされました。

この様に貴重なピアノが昭和4年当時の村松女学校の音楽教育の充実を願う菅家コウ先生の熱意で購入され、その恩恵を受けた多くの女学生が巣立って行きました。

所が昭和21年城下町村松は大火に見舞われ、猛火の中志ある方々の必死の働きにより無傷で運び出されました。24年アメリカの新制度で旧中学校と合併し高校へとお嫁入り。当時の松高は県でも有数な伝統校で旧帝大を始め東京の一流大学へ進学も多く、地元に残った方達の活躍も目覚しく、敗戦で疲弊した日本の国の礎となったのです。この友たちと共に、日々臥龍が丘を眺めて部活にはげみあの美しいベーゼンドルファーの調べに包まれて過した高校3年間は、今も忘れ難い思い出となっています。

昨秋、高4回生が月岡で同期会をした帰り母校を訪問、小形校長、山本教頭の出迎えを受け現在の学校状況等の説明を伺い新校舎を見学しました。授業中で音楽室内は見られず音楽部員としては心残りで松田睦ちゃん（アルト）と校長に直接ピアノの事を伺うと「貴重な文化財なので調律し大切に扱って居ります」とのお話でした。何分年代物のピアノなので果たしてプロの演奏に耐えられるかどうか。

実は私の友人にウイーンの音楽家が居り、5年前仕事で国際交流（日本伝統文化披露）をウイーンで行った折、引受けの彼女に、松高のピアノの話をしてあったので、校長のお話を伝えると「今春日本演奏会の日程の中に、新潟視察旅行をいれましょう。私も是非触れてみたいです」とのお返事。ヨーロッパ流の音楽家が松高のピアノに逢いに来られる!!これで、あのピアノに熱い思いを寄せられた多くの先達に少しは報いる事が出来るであろうか…と念じ、重責を覚えながらも今は夢が叶うかも知れない喜びで一杯です。

みどり・オルトナーさんはウイーン在住のピアニスト・声楽家で御自分の演奏活動の傍ら「ピアノ芸術協会」を設立し、若手音楽家の育成を計る努力家。彼女をご紹介下さったのはウイーン大学教授（哲学科）Dr 橋先生（息子の先輩）。あれからすでに10数年になりました。始めの頃は来日時の演奏会案内や私の発行する機関紙（公益法人）への寄稿でしたが、数年前ドイツ語のCDを制作するに当り、万葉集と古今和歌集他の原詩検索の御依頼があり、私の専攻が奈良・平安でしたのでお引き受けしました。

異文化をより深く理解しそれを生かした表現を試みる姿勢に強く打たれました。その時和歌の検索もさることながら、古代日本の歴史・当時の文化・作者の心情など

〈日本美への憧憬〉

～西洋に咲く日本文化の華～

◎ クロード・ドビュッシーの日本情景（3曲）

◎ ミヒエ・サラモン・蕪村の俳句（6句）

◎ マイヤによる北斎の「富士」小品（6編）

◎ 日本短歌集・万葉集・古今集他（16首）

◎ 〈ソプラノ〉 エレン・ファン・リアー

みどり・オルトナー

◎ 〈ピアノ〉 みどり・オルトナー

細かく伝えました。

昼と夜とが丁度正反対のウイーンと東京。ドイツ語と日本古語とのバイリンガル。膨大な資料は想像を絶する作業の連続でしたが、何とか二人で頑張って、見事な作品を生むことが出来嬉しい限りでした。

今回みどり・オルトナーさんの村松行きを現地で引き受けて下さったのが、英林寺の関谷正中さん（高6回）で高校の頃男性四重唱で活躍し、後に教師として（社会科）母校へ戻り後輩のプラスシートの指導をされました。今、東京で関わる合唱団の指揮者が、ウイーン留学時代にみどりさんの御夫君オルトナー教授の教え子であった事が判りこの何と奇なる御縁か?!と驚き、めぐり逢いの不思議を感じる昨今です。あのベーゼンドルファーが、遠きふるさとを思い出しナウ河の流れに乗せてどんな調べを紡いでくれるのでしょうか。

どうぞ一人でも多くの方々に、みどり・オルトナーさんの素晴らしい音楽をお聴かせしたいと願っています。

平成23年3月8日 記

ふるさとに根づく文化のかをり

～雪割草と村松萬葉の町～

高地 彰 (高8回)

初冬の十一月二十八日、上野の大佛山で「雪割草」の苗の植ゑつけ会があった。村松から大型バスで三十余人の人たちが上野の山にやってきた。首都圏からも四五人の参加。前もっての宣傳が行届かなかったか、この数は少し寂しい。埼玉から片柳ムツさんと岡部ユキさん、少し遅れて木村寿一氏と東京新潟県人会から石黒勝夫氏が駆けつけた。

この日は快晴に恵まれ、村松から緑色の法被を着た人たちを含めて、バスを降りるや幹事の挨拶もそこそこに早くも軍手をはめて植ゑつけが始まる。去年の経験があるので今回はほとんど説明が要らない。手際よく作業が進んだ。

去年の株がそこに残っているもので、その隙間を埋めるやうにスコップで浅い穴を掘って植ゑてゆく。村松から持ってきた約五百株の苗はあっと言ふ間に捌けてしまった。頭のなかではすでに赤や白の可憐な花が咲いた情景が浮かんでゐたことだらう。

ところで作業をしながら考へた。村松はすでに町がなくなつて四年が経つ。毎月送られてくる広報「ごせん」を見ると人口も減少の一途だ。夜ともなればシャッターの下りた店が目立つ。村松の文化活動の旗幟を鮮明にした『村松萬葉』も薄くなる一方だ。

それなのに雪割草の植ゑつけは愛宕山を始め、各地に広まってゐるといふ。事実、今年も東京まで遠征して来られた。雪深い越後の野山に、春を待ちかねたやうに可憐な花を咲かせるこの植物は、何といふ健氣な花なのだらう。その可憐さを愛でて、植ゑても植ゑても抜かれてしまふといふ。ひそかに持ち去る人がゐるらしい。

そしてこの花はなんと、たつぷりと水を得て暖かい春の日差しを浴びすぎると無残に枯れてしまふのだ。花は陽の光を浴びて咲くもの、といふ固定観念を否定するやうに、「私は日陰の花」と言はぬばかりの育ち方をする。それがなんともいぢらしい。

そしてもうひとつ、村松に根づいてゐる文化は年一回発行する『村松萬葉』であらう。もう二十七年続いたといふから驚く。村松の人を中心に、地方に出た人も多く文を寄せてゐる。そこには一様に人々が暮らした息づかいや、物を感じるたをやかな心のたたずまひが溢れてゐる。その土地に慎ましく生きた人の息吹と、遠く離れたところから故郷を想ふ人の感慨が詰まってるのだ。

しかしこのところ毎年だんだん薄くなつてきた。先輩達が物故してゐるからだらう。なんとか新しい人達を引き入れて、この香り高い文化を継承してゆけないものか。

今年の出版祝賀会に参加のため、久し振りに小雨降る薄暮の町を歩いたら、折りしも勤労感謝の日であつた

めか、通りには軒並み日の丸の小旗が飾つてあつた。その風情は、ここに住む人たちの慎ましさと、静かな日々の営みを物語つてゐるやうで、思はず立ち止まり背筋を伸ばしたことだつた。同時にその一方で、小生がかつて引揚者として異境の地から流れ込んできたゆゑに、とてもいぢめられた幼き日の思ひ出をも閉ぢ込めてゐた。

大きな事件があつた明治維新を経て、軍都として栄えた町はいま役目を果たしたかのやうに静かに眠つてゐる。しかし遠く大都会へ縁をたどつて可憐な花を植ゑつけにこられる町の人々はまた、薫り高い文字文化の傳承者でもある。村松は単に先祖の墳墓の地と言ふだけではなく、やはりかけがえのないふるさとなのかもしれない。雪割草と村松萬葉は、新しい文化のかをりを広めつつある。うれしいことだ。

平成二十二年十二月 記
☆これ以降は、五泉出身で三郷市在住の小倉和助氏の
ご好意で提供して戴いた資料により掲載致します。



雪割草 上野大仏周りに咲く雪割草

学名(和名): オオミスミソウ

(キンポウゲ科 スハマソウ属)

- * 学名ユキワリソウは、高山帯に生えるサクラソウ科の小さな多年草。日本に自生するスハマソウ属の植物も、雪解けのころ開花することから、雪割草と呼ばれている。
- * キンポウゲ科には、トリカブト属・フクジュソウ属・アネモネ属・オダマキ属など耐寒性があり、地下に根茎や塊茎を残して越冬し、翌春芽を出し、花を咲かせる植物が多い。
- * 雪割草の仲間は、北半球の冷温帯に分布し、ブナ等落葉植物林床植物として生育している。冬季には、林に差し込む日光を浴びて成長・開花し、種子を作り夏期には、茂った葉の下で休眠している。
- * ミスミソウ分布…中部(神奈川・長野・福井・富山)以西から福岡
- * スハマソウ分布…神奈川から岩手
- * オオミスミソウ分布…石川から秋田・青森の日本海沿岸丘陵
- * ケスハマソウ分布…瀬戸内海をはさむ四国・西日本から長野
- * 新潟県等に自生するオオミスミソウは、花や葉が大きく異変の幅も広く、色も形も大きさもさまざまな花が咲く。又、交配や増殖も盛んに行われており、次々に新しい花が作り出される。愛宕山の雪割草はオオミスミソウを中心に交配し増殖したものである。

慈光寺紀行

高岡 五百子 (高12回)

久方振りに故郷の墓参と滝谷の慈光寺へ訪れたのは、春も四月半ばの頃である。実家付近の家々や街並みの風情が懐かしく、何十年振りかの村松公園の桜は正に見頃の美しさを迎えていた。父が生前の町長時代、公園で行われた消防の出初式や、往時の賑やかだった遠い日の出来事が、いろいろと思い出された。

今年、百周年を迎えた伝統ある松高の正門（国の有形文化財）、その変わらぬ姿をカメラに収める。旧村松駅から車で二十分程度あちこち走り廻り、目的の慈光寺へと向う。菩提寺でもあったお寺を息子にも見て欲しいと言う願いからである。

慈光寺へ続く参道の手前に駐車場があり、そこで一息つく。天高く並び立つような杉に囲まれた五百メートル程の参道を歩き、静けさと澄んだ空気に癒される思い。淡い春光に満ちた鮮やかな緑に包まれて居ると、身体の中から新鮮に甦ってくる心地がした。



県の天然記念物 参道の杉木立

樹齢三百年から五百年を経た百四十本近い巨大な杉並木は、県の天然記念物に指定され、散策コースとして訪れた人々に親しまれている。参道には多くの石仏が点在し、六地藏尊、三十三観音菩薩、姥石、詩の道広場や鳴滝不動尊などの地藏尊が見守るように佇んでいる。その参道を過ぎれば、標高千十二メートルの名峰と言われる白山の登山道入り口にいたる。訪れた日は四月の山開きと重なり、大勢の登山者に出会った。裏山には、白山の山奥に住んでいたと言う大蛇伝説や天狗伝説の天狗堂がひっそりと祀られており、今でも語り伝えられている。階段を上って山門を通り境内に入っていくと、そこには開創千四百二年（室町時代）から続く六百年の歴史が重々しく感じとれる。越後四ヶ道場の一つとされ、禅宗のお坊さんが修行する寺でもある。七堂伽藍の構えは、修行僧が座禅をしている姿と言われ、改めて見入ってしまう。

慈光寺には体験コースが設けられていて、事前に予約すれば座禅道場での座禅体験や写経をしたり、郷土精進料理を味わう事ができる。座禅堂では、素足になり合掌から始まる。淀みの無い大気の中、静寂な時の流れに身が引き締まる思いになる。静かな心の思うがままに任せて座って居ると、気付かないうちに身体が揺れたり、背中が曲がったりしたのだろうか、ご住職の警策がピシッと右肩を打ち、ハッと我に返って再び心も新たに時が流れて行くうちに終わりとなる。

写経の体験は、広間に置かれた机にむかい「般若心経」

を静かな気持ちで写していくのだが、心を綺麗に洗う心境で一字一字を書き写していると、静寂な時の流れが身を清めていくように感じられる。

郷土の食材を使った慈光寺ならではの身体に優しい精進料理を美味しくいただく。ご住職が五観の偈（食事訓）を物静かに説かれ、そのお話を聞いていると次第に心が豊になって来るのを覚える。奥の間のお座敷で、一面に見える庭の風景は、まさしく一幅の絵を観ているよう。



郷土の素材をふんだんに使った
郷土精進料理

四季を通しての移り変わりの様子は、昔から変わらず繰り返される自然の営みである。夏の日には、汗ばむ暑気から逃れて濃緑の木立に涼を求め、お地藏尊が木漏れ陽の中に佇む参道を森林浴する。

秋には、山々に吹き渡る風も冷気を運び、鮮やかな紅葉が目を楽しませてくれる。参道の手前にある集落、蛭野には百本ほどの銀杏の木が立ち並び、県下でも有数の産地であるが、一面黄色に覆われた様は文字通り見事な黄金の里と言える。

冬になれば積雪と共に山里は静かな眠りについた様になり、木々に積もった雪は陽に美しく輝き、境内の雪景色は深遠な風情と趣を見せる。例年、二月十二～十三日は慈光寺の春の祭礼として、麓の別所にある虚空蔵尊のお祭りが開かれる。日が暮れて、手造りの雪灯籠の灯りが茅松の



別所の虚空像尊

町から山門までの道筋を、寒さが和らぐように幻想的に照らし出している様子は、雪の中の風物詩として親しまれている。この素晴らしい夜宮の祭礼は、今でも訪れるたびに幼い頃の郷愁を呼び覚ます。

都会では決して味わえない静寂と数々の伝説に包まれたこの名利を都会に発信しようと、息子は博報堂のボランティアチームを作り、慈光寺プロジェクトとしてご住職と何回も話し合いを重ねた。二年間に十五回以上は訪れ、パンフレットを作成したり、お寺のキャラクターをデザインしている。

都会の喧騒を離れ、一人でも多くの方々に慈光寺へ足を運んで戴きたいものと願っている。

座 禅 と 釣

今井 貞夫 (高16回)

私は子供の頃より神社、仏閣を参拝すると、其の度に身の引き締まる思いをしております。何と言って良いのか表現し難いのですが、心が落ち着くと申しましょうか、大変清々しい感覚になります。

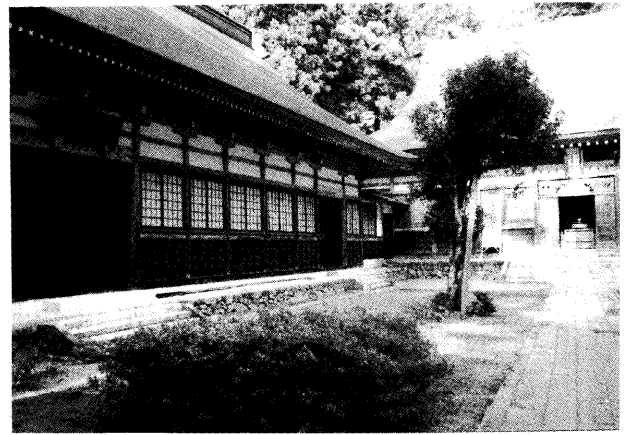
東京生活でのイライラ病、社会、会社への不満、同僚とのトラブル等ストレスを感じた時は、必ず近所の神社に参拝に行きます。境内に入ると直ぐにストレスが消え、清々しい思いになって再び平常心が戻ってきます。

数年前、仕事で住友ビル(丸の内)の裏手に行った事があります。早朝の為近くに車を止め、仕事の時間まで待つ事にしました。するとビルの一角に小さな祠を見つけ、先ずは参拝と思い境内へ入った途端、ビリビリッと静電気の走る思いがしたのです。「普通の神社ではないな!」其処はあの有名な「平将門の首塚」でした。参拝を終えて帰る時に、後ろから刀で切りつけられそうな、異様な殺気を覚えたものです。丸の内に勤めるサラリーマン達が、行列を作って参拝をしている風景も目にし、何か摩訶不思議な気分になり、それ以来、私が東京で一番好きな所となりました。

私は昨年春、定年を迎えたので東京の生活に別れを告げ、25年振りに新潟に帰って来ました。人の性格は、年を重ねる毎に「角が取れて丸くなる」と思っていたのが、私の場合「気短」になっていることに気付きました。人よりも「煩惱」を何倍も強力に持っている人間かもしれないと思っています。数年前、東京に居た頃にポーとテレビを見ていたら、何と故郷の旧十全村の「慈光寺」が座禅の修行道場として放送されていました。画面には、大勢の観光客が座禅の修業をしている様子を映して居りました。生まれ故郷の寺が「座禅道場」等と恥ずかしながら知る由もありませんでした。ただ古い寺としか考えていませんでしたが、600年の歴史をもつ越後四ヶ道場の一つだそうです。そういえば、夏休みになると私の従兄や先輩達がお寺で大学受験の為に合宿生活をしていた事を思い出しました。其の時代には、今の様にエアコンなどない時代ですから、少しでも涼を求めて「合宿所」として使わせて貰っていたものと思われます。小生も機会があったら「座禅」を体験したいものと願っていた所、此の度5月~8月にかけて数日間座禅の修行に挑戦する事が出来ました。

初日の参加者は20数名でしたが、回を重ねる毎に人数が減り、最後は3人になっていました。駐車場から参道へ50年振りに入山すると、大杉の並木が迎え入れてくれた。直径が何メートルもある杉林があり、案内をしてくれた長老の説明が上手い事!あれは確か天狗が腰掛けた大杉、これは大蛇が巻きついた大杉などと、昔に聞いた説明が懐かしく思い出される。上に登って行くと不

思議な錯覚に陥ち入り、此処は間違いなく名峰白山の筈が、大都会のビル群の中に居るような気分になってきた。そうだ此処は大東京西新宿のビル群だ、と急にタイムスリップした様な錯覚に陥る。小生推理作家ではないので上手く表現出来ないのが大変残念!更に上に登って行くと一番の老杉が見えてくる。これも最近何処かで見たような気が……今一番の人気スポット墨田区に建設中のスカイツリーに似た様子もするが、これも錯覚であろうか。一部建設工事に関わった最前目かもしれないな~と思いながら登って行き、山門を入ると右手に宝仏殿、其の奥に庫裏、中央に本殿、左手に座禅道場がある。名峰白山より湧き出る清流、天に聳える老杉に蔽われた様は修行場に相応しく、今でも現代人の心を清めてくれる。



境内に入ると左手の建物が座禅堂である

手を洗い、耳を清め、口を漱いで暫し待機する間、名峰白山と新潟白山神社の由来の立て看板を読む。やがて板魚で集合の合図があり、御前様より若干の説明を受け、見た事も無い真っ黒な座布団を、尻の下に敷いて座禅に入る。眼は完全に閉じず、組み手は親指を立てて置き隙間を作る。呼吸は鼻より深呼吸、口からゆっくり出す。10分位経つと全員が前後に揺れ始めた。すると「沢」という木で肩をビンシーと打たれ、その音が静かな道場に響き渡る。有難そうに合掌しながらも、何で肩を打たれるのか解らない。俗世間なら打ち返したい所であるが、全くもって解らない。これが1回目の感想である。1回や2回の経験では理解出来ない事であろう。それが座禅であろうか?回を重ねるにつれ本当に「煩惱が消え、角が取れて丸くなる」ものであろうか?

小生の趣味は「釣」である。定年後、新潟に帰ったら時間の許す限り、思う存分釣りをやってみたいと思っていました。仕掛けを付け岸壁、岩場、砂場と場所を選び、糸を投げ入れ「ジー」と魚信を待つ。1日何も釣れなくとも良く、こんな楽しい事は他にない。「座禅も釣」も「無心」になれる。行き着く所は同じでは無かろうかと思っています。

M9.0 東北・関東大地震遭遇

阿部 勇 (高9回) 仙台市在住

宮城県沖を震源としたM9.0の大地震が3月11日の14時46分に発生し、正に私は福島市で遭遇しました。当日は、孫の中学卒業式に出席し、式も予定通り順調に終了したので娘宅に行き、娘と孫と私達夫婦の4人でお祝いのお膳を囲んでいました。食事が終わった頃、急に地震が発生したのです。最初は縦揺れ、次に横揺れが大きくなって来たので直ぐ皆で外へ飛び出し、50坪ほどの駐車場の真中に避難して様子を窺っていました。横揺れは非常に大きく1分以上続き、近くの4階建ての空きビルがバリバリ!!と大きな音をたてて1階部分が潰れ、3階建てになって仕舞ったのです。これを見て仙台にある自分の家は大丈夫か心配になってきた。地震が少し収まり、娘と孫の安全を確認してから車に飛び乗り仙台の自宅に向う。5分ほど走るとガソリンスタンドが目に入ったので、まずはガソリンを満タンにし、次にコンビニで食糧を入手した。この時、ガソリンが給油出来たことは全く幸運であり、ましてや満タンに出来たのは全く間一髪之差であった。仙台市に8時間を要して帰るも、緊急車輛が優先通行であるから一般車は後回しになり、走行もままならない。市内のガソリンスタンドの大半は被災のため営業不能になり、給油可能なスタンドには一般車が長蛇の列をなし、8～10時間待ちの大混雑で、しかも10～15%の限定的な給油になった。

さて私事になりますが、前回の宮城県沖地震(M7.4)は33年前の昭和53年6月に発生し、仙台では震度5でした。この時ブロック塀の倒壊で7人の尊い犠牲者が出たのです。5年程前から宮城県沖地震は70～80%の確率で近々の内に発生すると報道されていました。

我家でもそれなりに心の準備は出来ていて、3年程前から妻が水・冷凍食料品・電池類などを少しずつ蓄えて居たのが幸でした。但し、今回の大地震は前回と比べて余りにも広範囲に及び、4月9日現在まで震度4以上の余震は93回発生している。また最大18.3mもの大津波による住宅・鉄道・道路などの被害は計り知れないほど大きく、八戸・宮古・山田・釜石・陸前高田・大船渡・気仙沼・南三陸・女川・石巻・仙台・名取・岩沼・相馬・いわき等の各漁港、海水浴場も壊滅的打撃を受け、多数の犠牲者が出た。3月30日の報道では、東北だけで死者11,358人、更に行方不明者16,000人余りで、死亡と行方不明者合わせて27,000人余りと想像を絶する被害になった。身内を亡くしてしまわれた方々の心情を想えば、何と申し上げるべきか言葉を失う。

我が家は犠牲になられた方々から見ればとても文句は言えません。屋根瓦や風呂場や床の間と家具類などに大きな被害を被りましたが、夫婦共々怪我をせずに無事であったことは何より幸でした。

今回の大地震や巨大な津波によって家が倒壊したり流

されてしまった方々や、福島第一原発事故によって半径20km圏内の避難指示が出された方々を合わせると、3月30日現在で17万～18万人の方々が避難生活を送られている。しかしながら政府や自治体、外国等からの懸命な努力と支援も全く追いついていないのが現状で、国を挙げて一層の支援体制をお願い申し上げる次第です。

被災地のライフラインも日増しに好転し始めています。電気(60%)、水道(36%)、ガス(15%)等の復旧が少しずつでも進んでいます。特に仙台ガスは港工場を焼失したため、新潟より天然ガスを送ることで対応しています。然しながら、平常の状態までは1年以上を要する見込みです。

さて、私は宮城県沖地震に2回遭遇して、常日頃からの準備や心掛けを参考までに記してみます。

- 1) 1週間分の水・食糧・電池・ティシュペーパー・カセットコンロとガスボンベを備蓄しておく。
- 2) 災害避難伝言電話のやり方をメモしておく。
- 3) 家具・食器棚・テレビ等を固定金具で固定しておく。
- 4) 根拠の無いデマに振り回されない、被災後の工事業者を事前に良く選定しておく。
- 5) 地震保険は建物・家財など内容を損保会社や代理店と良く打合せをして万全を期すること。
- 6) 地域の避難場所を前もって近親者に知らせておく。
- 7) 近親者の電話・携帯電話・メールアドレスをメモしておく。



近くの倉庫から流されてきた新聞用のパルプ紙



津波で破損した車輛の集積所

松城健児 未来に羽ばたけ！

安中 信夫（20回生）

今は懐かしいSLが、白い蒸気を吐きながら、磐越西線の五泉駅に入ってきた。その列車に乗り込み、見送ってくれる友に別れを告げ、新津経由で群馬桐生の地へ向け旅立った今から四十四年前の二月、私は社会人としての第一歩を踏み出しました。当時は「西の西陣、東の桐生」と謳われた織物の名産地桐生。その繊維関係の会社に就職しサラリーマン人生がスタートしました。約十年間勤務した後、脱サラで園芸資材を製造する会社の設立に参画しました。所が、放漫経営が祟り七年後に倒産、個人的にも多額の保証債務を抱え、どん底に突き落とされました。村松を旅立つ時は「青雲の志」を抱き、希望に胸を膨らませていたのに脆くも崩れ去り、先の見えない日々が続きました。そんな中で多くの方に支えられながら、二十六年前に現在の会社を立ち上げる事が出来ました。再建の道は茨の道で大変厳しい物が有りましたが、年を経る毎に業績を伸ばす事が出来、この不況下何とか生き残っています。

まだまだ小さな会社ですが、昨年突然母校の就職担当の先生の訪問を受け、就職戦線の厳しい現実を伺いました。「求人の予定があれば是非、松高生の採用を検討して欲しい」旨のお話を頂き、何とか後輩の就職の手助けをしたい想いと、自分自身の将来の勝ち残りのためには、若手の人材の育成が不可欠との考えに至りました。新規採用を母校に求めようとお話した所、早速希望者が現れました。昨年の松高の2回目の就活バスツアーが、我が社を訪問した折に面接を行い、其の後内定に至る事が出来ました。たった一人の採用ではありますが、後輩を迎える事はとても嬉しい気持ちです。自分の四十四年前の姿についてダブらせてしまいます。今は就職戦線も厳しく、若者にとっては夢を持ってない社会かも知れませんが、夢と希望を失ったら若さの特権はなくなってしまいます。

夢の実現に少しでも役に立てるように応援して行きたいと思います。

「未来に羽ばたけ！ 松城健児！」



平成23年2月4日開催した創立25周年
社屋新築移転10周年記念謝恩パーティ

日記でボケ防止？

徳永 道子（高12回）

私が日記をつけ始めたのは、6年前のお正月からです。姉が毎日書いていると聞き「それでは私も」と一念発起しました。きちんとした日記帳ではなく、普通B5ノートで始めました。

最初は「今日は何があった」などと覚書のような5～6行の簡単なものでしたが、書き始めると、どんどん内容が多くなり、孫のおゆうぎ会や、運動会等は1頁以上になったり、旅行に出掛けた時などは、3～4頁に及ぶ事もあり、まだ6年半位ですが既に32冊になりました。時々、昨年は何をしていたのかな？とか、孫たちと水族館に出掛けたのは何日だったのかな？と頁をめくる事があります。入場券やパンフレットも貼ってあるので、その時の事がよく思い出されます。

最近、私は脊柱間狭窄症なる病名をつけられ、その症状の一つとして間欠性跛行で時々歩行が困難になる事があり、どうしよう？と不安を感じています。接骨院を営んでいる長男に“足・腰の筋肉をつけなければ、どんどん歩けなくなるから、痛みのない時は出来るだけ歩いて筋肉をつけるように・・・”と云われ、何とか努力しなければと考えているのですが、思うように行きません。2年前までは週に3日ていど早朝散歩をし、近くの川筋の遊歩道を5km程歩いていたのですが、調子が良くてどんどん歩ける日もあれば、痛みを我慢しながらゆっくりゆっくり歩く日等いろいろでしたが、今はもうほとんど散歩へも出掛けられなくなり、50～60m歩いただけで痛みがきて、一休みしなければ一歩も足が出なくなる状態になりました。

最近では月・火・木・金はスポーツクラブのプールで水中ウォークとアクアビクス。水・日は卓球をしています。運動をしている時はなんともなく動けるのに、普通に歩くのがダメで本当に不思議です。

散歩を普通に出来ていた頃は、川には川鶉・川せみ・鶯・鴨等を見る事ができ、6月には鴨の赤ちゃんがかえったりして、親鴨の周りに小さな子ガモが10羽も泳ぐ様は本当に可愛く、しばし足を止め眺めてしまいます。どうぞ皆無事に育ってね！と願わずにはいられません。このような事も日々、日記に書き込み楽しんでいたのに、今はもう見る事もかなわず残念に思います。

先日ある雑誌に脳外科の権威である、中野重徳先生の記事が載っていました。「日記はボケ防止になる…」と。私は60歳を過ぎてからですが、毎日字を書くことで脳も活性化されているのでは？また、漢字も忘れずにいられるのでは？と思いつつ期待しながら続けております。これからも、ボケ防止のために、いつまでも続けて行こうと心に誓っているのですが・・・。

小出博三氏の油絵展にて

今年の3月6日（日）から12日（土）まで1週間の予定で小出氏（高8）の第13回油絵展が、昨年と同じ有楽町の東京交通会館B1（シルバーサロンA）に於いて開催されたので、初日に拝観してきた。初日から多数の方々が鑑賞しておられたが、8日には同窓の方々も立ち寄られ、久し振りに話し込んだりして楽しく鑑賞されたようである。

最近、写真やいろいろな資料等でお世話になっている小倉和助氏が11日に来場され、ゆっくり鑑賞したり写真を撮ったりして帰られた由。ところが当日は、千年に一度と言われる巨大地震（M9.0）が午後2時過ぎに発生。丁度、帰りの神田駅で遭遇したため、三郷市の自宅まで帰る手段が無くなり、駅で一晩過ぎざるを得ず風邪を引いてしまったとの事。大変お気の毒なことであった。

一方、小出氏は展示物に被害が出なかったものの、展示を継続出来ないと即座に判断し、運送屋さんに電話したところ幸運にも予約でき、12日（土）の朝早くトラック便が来てくれたとのこと。しかしながら通常であれば自宅まで1時間弱の道程のはずが、3時間半も費やしたそうである。突発的な大地震であったが、怪我もなく作品も無事に撤収できたことは、不幸中の幸いと言えるかもしれない。これにめげず来年も一層素晴らしい個展を開かれるよう切望して止まぬ。

大橋 記



3月8日に訪れた同窓の方々と小出氏（左端）



初日に立ち寄ってメモをとりながら鑑賞される方々

喜寿・結婚五十年・孫の七五三

鈴木 健司（高4回）

昨平成22年は、私にとって人生の複数の記念すべき行事の年でした。標題の順番で記事に致します。

同期生との「月岡温泉」での祝賀会に参加いたしましたように、『喜寿』の年でした。誕生月は8月です。

一方、私達夫婦は『結婚五十年』の年でした。結婚式を挙げたのは、12月でした。

祝賀会のために研究してみました。

1. 「還暦」「古稀」「喜寿」「米寿」「卒寿」などの年齢に基づくお祝いは、周りの人達が催して下さいます。
2. 「結婚五十年」は、『皆様方のご指導・お引き立ての御蔭様でございます』という趣旨で、50年を迎えた夫婦が『皆様方』を、お祝いの席にお招きするのが、社会慣習でございました。
3. 別居している息子一家と話し合っ、『「喜寿」と「結婚五十年」合同の「お祝い会」を開催して、費用を折半しよう』と合意いたしました。

4. 『祖父母と2人の孫』の4人の写真が、その時です。昨年の11月6日には、息子一家と下の孫の「七五三」のお祝いに、夫婦で「明治神宮」にお参りいたしました。孫2人がその時の写真です。両方の行事の写真撮影ではどうしても孫の方だけに関心が向いてしまいます。

我々夫婦にとって、現在の孫は、この二人だけです。

『孫可愛がり』は長生きの賜物と感謝しております。

上の孫は、今年の4月に「中学1年生」になります。そのお祝いのやり方を、いろいろ考えながら、私の将来に関しまして、次は『米寿』、その次の『卒寿』を達成しよう。そうすれば、『曾孫』を抱けるかも知れない。と、夢を抱いております。どれかでも、実際に体験できたら大変な幸せです。



第15回親睦ゴルフ会開催

平成23年4月7日、人間カントリー倶楽部に於いて松高東京同窓会の第15回ゴルフコンペが開催された。

地震の影響で通常の1/4程度の客足ではあったが、4分咲きの桜をバックに恒例の記念撮影をして、午前8時42分に1組目がスタートして行った。今回もまた亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話になり、心から感謝と御礼を申し上げたい。



四分咲きの桜を背にして元気ハツラツ!!

第15回ゴルフコンペ成績

成績(敬称略)

優勝・今井 英雄、準優勝・佐藤 克、

3位・鈴木 理恵子

参加者名(順不同・敬称略)

1組 鈴木 輝雄、片柳 ムツ、鈴木 理恵子

2組 亀山 知明、金子 鶴男、吉井 清

3組 大橋 貞夫、今井 英雄、石黒 勝夫、佐藤 克



初めての優勝杯の感想は?

第16回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成23年10月5日(水)、人間カントリー倶楽部に於いて第16回親睦ゴルフ会を開催いたします。優勝杯を手にして、美酒を飲んでみようと思われる方は下記へご連絡下さい。

吉井 清(高8回) Tel & Fax 042-527-6482

亀山 知明(高3回) Tel 042-572-5096

編集後記

このたびの東日本大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、被災された方々に対し心からなるお見舞いを申し上げます。

今回の大地震は千年に一度の貞観じょうがん津波(869年の再来と言われている。しかし、これまでに大なり小なり数え切れぬほど地震は発生していた。福島第一原発は、設計段階でどの程度の危険因子を考慮して造られたのか、我々一般国民は、何も知らずにこれまで原子力発電の恩恵にあずかってきた。重大事故が起きてから事の重大さを思い知るのだが...

中部電力は定期検査中の浜岡原発3号機(静岡県御前崎市)を7月までに再開したい方針だ。原子力安全・保安院の指示で高さ12メートルの防波壁や非常用発電機設置などの緊急対策をまとめ、保安院の審査に通れば再会できる。しかし法的に手続きが完了すれば、いかなる自然災害からでも原発をまもれるのか? また、保安院が責任を持つて安全を保証出来るのだろうか? 福島原発も東電のみ矢面に立っているが、真の責任者は他に居ないのだろうか?

政治・行政の欠陥や怠慢に鋭く眼を光らせ、問題の根幹を徹底的にえぐり出して国民に知らしめるのがマスコミの役目であり、責任ではなからうかと思う。そろそろ大本堂発表から脱却してもらいたい。

5月3日記 広報委員会 大橋

原稿送付先

〒158 0094

世田谷区玉川四一二十八

大橋 貞夫 宛

E-mail sadao_o@gb4.so-net.ne.jp

平成23年6月 第51号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27) 書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

東京同窓会事務局 〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

電話・FAX 番号 03-3488-2117(石黒四郎)



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	県立村松高等学校
浮田 辰平 作詞 曲は 旧軍歌より 1. 塵の巷を遠ざけて 雲たちまよふ白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流にも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰が心ぞや 5. 夫れ英雄も人傑も 人の子吾等が類なり あゝ松城の健男児 奮ひて起つべし諸共に あゝ松城の健男児 勇みて起つべし諸共に	相馬 御風 作詞 大和田愛羅 作曲 1. 愛宕の山のむら松の みどりの色の常盤なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雪にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. その名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂ふごと 気高き姿保たばや	相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなざれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生气湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
第一応援歌	第二応援歌	第三応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て 花紅の香に匂ふ 誉れは高き松城の 健児が胸に血や躍る 2. 我等がえらぶ丈夫の 誉れは海の湧くがごと 望みは雲の行くがごと 月の桂をな譲りそ 栄ある名をぞとこしへに	1. 松城健児六百が 祖国の為に剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り 3. 今壮快の晴戦 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り